

カリキュラム 区分		授業 科目	文化人類学 Cultural Anthropology			担当 教員	紙村 徹 (専 任)
開講年次	2年次後期	単位数	2単位	科目 分類	看護学の基盤となる科目I	授業形態	講 義
選択必修	選 択	時間数	30時間			使用教室	
授業の目的及びねらい		<p>本講座では、ことに人間の基本的ニーズと関わる衣・食・住および人間の生命サイクルと関わる生・老・病・死をめぐる多様な諸文化の慣行・意味付け・価値観を横系に、そして家族・親族・地域社会を中心にした社会構造を縦系にして講義することになるが、それはけっして様々な文化についての知識を増加させたり、風変わりな奇習を紹介するのが目的ではなく、むしろ文化人類学の思考法というものを身に付け、これを私達の現代生活の理解・分析に応用できるものにしてゆくことを目的とする。授業は、授業計画に従って、学生諸君の反応をみながら毎回トピックを選んで進める。</p>					
授業のキーワード		文化の慣行、文化の相対性、価値観、ライフ・サイクル、家族・親族の構造					
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画						
第1回 ～ 第3回	<p>I：イントロダクション — 王族の近親婚をめぐる II：近親婚 / 近親性交の禁忌と回避 1. 近親婚と近親性交の差異 2. インセストの禁忌 / 回避をめぐる諸理論の迷走 (VIDEO)</p>						
第4回	<p>III：食事のメニューと料理の三角形 食人俗 (カニバリズム) — 食欲と性欲をめぐる</p>						
第5回 第6回	<p>IV：性差は相対的か？ (セックスとジェンダーのズレ) 社会のしくみが変われば男らしさ、女らしさの内容も変わる</p>						
第7回	<p>V：古代アステカ帝国の人身供犠の構造について VI：ヒトの懐胎と出産の民俗理論 生命元素：精液と血液、月経の禁忌</p>						
第8回 第9回	<p>VII：子供から大人への通過儀礼 通過儀礼の構造と婚姻儀礼のシンボリズム (花嫁は死者？)</p>						
第10回 ～ 第14回	<p>VIII：白秋から玄冬へ — 成熟か、老残か？ 1. 極東圏の祖先崇拜観 2. 棄老の俗：姥捨て山伝説 (VIDEO)</p>						
第15回	<p>IX：家族・親族と地域社会 1. 一妻多夫婚、女性同士の結婚、男性同士の結婚 (D.V.D) 2. 国家に抗する社会の論理と倫理 3. 神聖王権の王殺し (VIDEO)</p>						
テキスト	毎回、プリントを配布。						
参考文献	<p>山口昌男 著「文化人類学への招待」：岩波新書 ミルチャ・エリアーデ 著 久米博 訳「豊饒と再生・エリアーデ 著作集2」：せりか書房 波平恵美子「いのちの文化人類学・新潮選書」：新潮社</p>						
成績評価の方法と基準	<p>レポート1回 (50%) 筆記試験 (50%) (ただし場合によってはレポートに替えることあり)</p>						
教員から学生へのメッセージ	履修条件は特にないが、異文化理解に深い関心を持っていることが望ましい。						